

畜研だより

平成30年4月号

発行 富山県農林水産総合技術センター
畜産研究所
〒939-2622 富山市婦中町千里前山1
TEL 076-469-5921 FAX 076-469-5945
<http://www.pref.toyama.jp/branches/1661/chikusan/>

平成30年度に取り組む重点研究項目を紹介します

(研究推進目標)

本県の畜産生産現場を取り巻く課題への対応と、将来を見据えた畜産業の推進を目指して、以下の5つの技術領域について展開を図ります。

- (1) 高品質ブランド畜産物の生産技術の開発
- (2) 畜産経営体支援のための生産性向上および低コスト化技術の開発
- (3) 環境に配慮した持続的畜産の推進
- (4) 技術開発を支える基礎的・基盤的試験研究の強化
- (5) 種畜の安定供給と維持管理の推進

(重点研究項目)

■高品質ブランド畜産物の生産技術の開発

○飼料用米・生稲わらサイレージ給与による黒毛和種生産及び牛肉差別化技術の開発

(H29~33)

富山県の立地条件を活かした県内産の飼料用米や生稲わら等を給与し、機能性成分に富む特徴ある高品質牛肉生産技術を開発します。

■ 畜産経営体支援のための生産性向上および低コスト化技術の開発

① 乳用子牛の効率的な哺乳方法の開発

(H30~32)

哺乳速度が子牛の成長に及ぼす影響について体系的に調査するとともに、時間的制約のある酪農家においても実践できる省力的な哺乳器具を考案し、これらの結果を合わせて、効率的・効果的な哺乳方法を提示します。

研究内容



省力的哺乳器具の開発

- ◆ 飼料摂取量・体重
- ◆ 飼料消化率
- ◆ 下痢の発生状況
- ◆ 胃液の性状
- ◆ 行動記録



効率的な哺乳
(ちびちび×省力的)

■ 環境に配慮した持続的畜産の推進

① 未利用資源を活用した牛舎敷料利用技術の確立

(H30～32)

オガクズの量的確保が、経営的な負担となっていることから、代替敷料として地域で排出される生薬残渣やキノコ廃菌床などの未利用資源に着目し、各資材のアンモニア吸着能力や家畜の行動、衛生状況、堆肥化特性等を究明し、牛舎敷料としての利用技術を確立します。



研究内容

・アンモニア吸着能力

孔隙による吸着、保持水分に溶解して吸着、pH緩衝による揮散抑制効果

・牛の行動調査

牛床敷料の違いによる横臥や起立等の行動など

・牛舎等の衛生状況

牛体の衛生状況（尾、下腹部、乳房、後肢下肢等）、敷料中の大腸菌群数等

・堆肥化の特性

堆肥成分、堆肥化初期の臭気発生量、発芽試験など

■ 技術開発を支える基礎的・基盤的試験研究の強化

① リモートセンシングを用いた草地の生産性向上技術の確立

(H30～32)

無人航空機（ドローン）等を活用したリモートセンシング技術を活用し、広い草地全体を可視化し、その状態をリアルタイムに把握することにより、肥培管理や雑草対策など効率的かつ効果的な草地管理技術を開発します。

研究内容

空撮方法及び画像処理方法の確立

飼料作物の生育状況と空撮データ推定値の関係性の検証

経時的な生育変化の要因調査

IT技術を用いた草地状況の解析手法の確立



○ ICT 技術を活用した黒毛和種の効率的な管理技術の開発

(H29～31)

ICT を利用した牛個体情報管理とセンサーを利用した運動量や発情等の生体情報を把握する技術を開発します。

■ 種畜の安定供給と維持管理の推進

・繁殖及び発育能力の高い系統豚「タテヤマヨークⅡ」や肉質の良いデュロック種雄豚等を種豚として養豚農家に供給することで、農家の生産性の向上及び品質の向上を図ります。

・肉用牛及び乳用牛を改良し受精卵等の優良遺伝資源を供給します。